

育成年代の優れた女子サッカー指導者のコーチング・メンタルモデルの構築
Constructing of the coaching mental model of the expert coaches of female soccer players of the
developing age

1K09B085

指導教員 主査 堀野博幸 先生

近藤 裕介

副査 倉石平 先生

【目的】

コーチング・メンタルモデルとは、「指導者が選手の指導にあたり心内に構成していく理解内容であると同時にその後の指導の拠りどころになるもの。」(北村ら, 2005)と定義づけられている。サッカーの指導者のコーチング・メンタルモデルは、これまでの先行研究によって徐々に明らかになってきているものの、その中に女子サッカーの指導者に着目して行われた研究は見当たらない。なでしこジャパンの活躍からも分かるように、日本には優秀な女子サッカーの指導者がいると考えられる。そのような指導者のコーチング・メンタルモデルを明らかにすることは、多くの女子サッカー指導者や、女子サッカーの指導者を目指す人にとって価値のあるものになりうる。よって、女子サッカーの指導者、その中でも多くの指導者が携わり女子サッカー発展のために重要な役割を担う育成年代の指導者に焦点を当てたメンタルモデルの研究が必要であると考えた。以上のことから、育成年代の優れた女子サッカー指導者のコーチング・メンタルモデルを明らかにすることを目的とした。

【方法】

育成年代の優れた女子サッカー指導者が本研究の研究対象となるが、先行研究を参考に基準を定めた。1) 全日本女子ユース(U-18)サッカー選手権大会において、2011年以前の7年間(2004年までは都道府県選抜チーム出場のため)で2度以上チームを優勝に導いた。2) 女子日本代表選手を複数人育成した経験を持つ。3) 女子サッカーの指導歴が10年以上。以上3つの基準を満たす2名の指導者を対象者とした。また、北村ら(2005)などの先行研究を参考に、指導者の指導行動についてより個性が高く、深く掘り下げた詳細な情報を得ることができる質的な研究方法(インタビュー調査)が本研究には適していると判断し採用した。

【結果】

指導者Aはどんな時でも自分の力が発揮できる強い人間を育てる「人間形成」を最重要に考え指導を行っていることが明らかになった。「競技力の向上」、「ピッチ外の重要視」、

「支援」の3つの大カテゴリーは全て「人間形成」へとつながっている。また指導者Aは、強い人間が強い選手という考えを持ち、「人間形成」がおこなわれることによって、「競技力向上」につながると考え、「人間形成」から「競技力向上」へのアプローチも行っている。また、「競技力の向上」と「ピッチ外の重要性」は相互に影響しあうため、どちらか一方を重視しているわけではなく、両方を高める指導を行っていることも明らかになった。

指導者Bは、「本分を全うする人間」に選手がなることを最も重要なことだと考え、本分を全うする人間をつくるためには、「親の重要性」と「指導者の姿勢」が大切だと考えていることが明らかになった。親の重要性は、親が本分を全うすることが選手が本分を全うする人間になるために重要だと指導者Bが考えていることからメンタルモデルに反映された。指導者の姿勢の中でも、指導者自身が本分を全うすることが本分を全うする人間を育てるために大切だと考えていることが明らかになった。また指導者の姿勢の根底には、「選手の尊重」があることも明らかになった。

【考察】

北村ら(2005)のメンタルモデルにある熟達化と、指導者Aのメンタルモデルにある競技力の向上は類似している。熟達化が技術の向上に焦点を絞っているのに対して、指導者Aは競技力を向上させるための指導として技術面だけでなく体力面や精神面へのアプローチも行っていることが明らかになり、メンタルモデルにも反映された。指導者Aは、大森(2010)の対象者と同じく他律から自律へと指導順序が向かっていると考察された。

指導者Bは人間性を指導によって矯正していくのではなく、それぞれの持つ人間性を尊重し、それを生かせるような指導をしていることが考察された。指導者Bには、指導者Aや北村ら(2005)と同様の基幹的質問を用いてインタビューを行ったにもかかわらず熟達化や競技力向上に類似するカテゴリーはみられなかった。これは、指導者Bが指導に関して「サッカー知っているとか知らないとかっていうレベルじゃない。」と述べているように、サッカーの技術や戦術などに指導の重きを置いていないことから表れた結果だと考えられる。